



JAC北九だより NO.11

社団法人 日本山岳会 北九州支部
Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行: 社団法人日本山岳会北九州支部
事務局: 北九州市若松区和田町11-13
大庭 常生(副支部長兼務) 方
〒自宅 093-771-4538
昼 093-541-0259
発行人: 秦 野 一 彦
編集人: 大庭常生・伊藤久次郎

総ての議案をスムーズに承認 平成15年度 第4回通常総会報告

事務局担当代行 北九 13643 関 口 興 洋



通常総会に出席した39人の会員諸氏

会員の皆様、新緑の美しい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

「JAC 北九だよりNo. 10」でお知らせしましたとおり、4月19日八幡東区の大谷会館にて第4回通常総会が予定通り開催されました。

○出席者 39名・委任状49名 計88名

○会員の状況 (3月31日現在)

正会員 73名

支部会員 83名

計 156名

○支部長挨拶

秦野支部長がやむを得ぬ事情により欠席されたため、支部長からのメッセージを司会者の大楠氏が代読。(メッセージ文は2ページへ)

○各議案の審議

大庭副支部長が議長に選出されると、議案書に従い審議が進められ、1号から5号までの各議案が拍手で承認されました。

なお、6号議案その他は、委員会からの報告事項として、日本山岳会百周年記念事業として本部が推進する

(1)『日本山岳会百年史』の支部専門委員として日向祥剛氏、

(2)『中央分水嶺の一斉踏査計画』の支部専門委員として板倉健一氏をそれぞれ委嘱することとした旨報告が行われました。

○記念シンポジウム

総会に引き続いて、大庭常生講師の「北アルプス最新情報」と板倉健一講師の「冬山登

山の心構え」
についてのシ
ンポジウムを
開催し、数人
の女性会員か
ら活発な質問
が出され予定
時間がオーバ
ーする程でし



記念シンポジウム

た。懇親パーティでは、新入会員や若手グル
ープが紹介され、出席者一同から盛んに激励を受
けていました。そして早速、アンケートの結果
により、5月の山行計画は、若手の磯野文雄氏

が由布岳登山の総括リーダーを務めることに
なりました。(計画は12ページへ)



懇親パーティでの将来期待の若手？ グループ

秦野支部長のメッセージ

「本日の第4回支部総会に臨み一言ご挨拶申し上げます。

当日本山岳会北九州支部は、平成12年9月の創設以
来、早いもので2年7カ月を迎えることができました。
これも会員の皆さんのご支援ご協力の賜物と感謝致しま
す。

当北九州支部は、本部会員のみならず、山好きな方々
を支部会員として迎え、幅広い山岳活動を行う目的で結
成されました。このような組織は、日本山岳会25支部
のなかでも珍しい存在ではないかと思っております。

本部会員だけでなく、支部会員も含め同じ志を持ち、
共に活動している事については本部からも高い評価を得
ております。

我が国においては、すでに、山岳活動は中高年を主に
裾野の広いものになっており、かつてのエリート集団固
有のものでは無くなっております。

私達は、この大衆化現象に目をつぶるわけにはいきま
せん。むしろ、この現実にした活動の展開を考える時
であると思います。これは日本山岳会の大塚会長の理念
でもあります。

高度の技術を磨き世界の屋根を目指すのも我が日本
山岳会の誇るべき活動の一つであります。我が北九
州支部においては、そのような高い志を持ちつつ、同
時に、登山者が安全かつ楽しく山岳活動が出来るよう
に、又日常的に地域貢献にも目を向けた活動を進めて
いくことに、その存在価値があると思います。本日の
総会の事業計画にありますように、この北九州地区か
ら、山に親しみ自然を大切にする山岳愛好者が沢山育
っていくことに努めるのも、私達の役割ではないでし
ょうか。皆様がたのご賛同とご協力をお願い申し上げ
ます。

本日は、止むを得ない事情により本総会を欠席し、
大変申し訳なく思っております。規約にもとずき私の
支部長としての総会任務全般を大庭副支部長に委任い
たします。又、議長の任務も副支部長に代行を依頼い
たしますのでご了承をお願いします。

最後に、参加された皆さんのご協力により有意義な
総会となりますよう、心から祈念して、私のご挨拶と
いたします。

平成15年4月19日

日本山岳会北九州支部長 秦野 一彦

6月の山行

残雪のまばゆい槍・穂高の展望台！

上高地ウエストン祭参加と蝶ガ岳登山

「J A C 北九だよりNo. 10」でご案内しましたが、まだ枠に余裕がありますので、
参加ご希望の方は担当の関口興洋までFAX (093-382-6436) または葉書で
申し込んでください。定員20名。宛先・北九州市門司区新原町 12-27 〒 800-0053

日時 H 15年5月31日～6月3日(3泊4日)

日程 ①小倉(新幹線)名古屋(バス)上高地村営ホテル(泊)前夜祭 ② JAC 山岳研修所訪問。
ウエストン祭参加→横尾山荘泊 ③蝶ガ岳登山(ヒュッテ泊予定) ④下山・上高地→
名古屋→小倉

冬山準備山行

犬ガ岳・求菩提山 山行報告

S L 行橋市 JAC13523 浜 松 礼 子



平成 15 年 1 月 19 日 (日)、
大山の冬山準備山行を目的
に、福岡県で最も積雪が多い
とされる犬ガ岳・求菩提山の
山行結果は、次の通り。

参加者と役割分担

正会員 9 人、支部会員 5 人、
ビジター(一般) 10 人 合計 24 人
チーフリーダー (CL) 大楠益弘
サブリーダー (SL) 浜松礼子
一班班長 浜松礼子
副 班 長 高島拓生

原 宏美・西村信子・浦田和
男・馬場基介・横山洋子・
太田 満・藤垣三知子・磯部
秀樹・西村俊二・進谷 諭
二班班長 大楠益弘
副 班 長 三宅清和
関口興洋・三木順一郎・三木
靖子・室田安代・梶原誠子・
八重尾幸子・安富寛子・小石
貴代美・正本明子・神代カズ
子

コースと時間記録

求菩提資料館駐車場 8 : 00
集合・8 : 22 出発～犬ガ岳登
山口 8 : 40 ～沢 8 : 52 ～恐淵
9 : 35 ～夫婦淵 10 : 15 ～林
道ベンチ 10 : 50・11 : 10 発～
大竿峠 11 : 30 ～一の岳 11 :
50(昼食) 12 : 30 出発～杉の宿
跡 13 : 20 ～虎の尾 14 : 10 ～

護摩場 14 : 25 ～求菩提山 14 :
37 ～護摩場 14 : 55 ～求菩提駐
車場 15 : 40 ～解散 16 : 00

【総括】

1. 班構成は一班に 2 月の伯耆

山行記録

冬山第二回目訓練
犬ガ岳・求菩提山

中津市 JAC13540 三宅清和

12 月(九重)の冬山訓練に引き
続き、冬山登山の基本的な技術
を身につけるための山行が 1 月
19 日(日)、犬ガ岳・求菩提山に
て行われた。

午前 8 時 22 分、曇り。求菩
提山資料館駐車場から、車道を
歩き、およそ 10 分ほどで岩岳
川に架かる橋が登山口。そこか
ら、恐淵コース(右)から犬ガ岳
(一の岳)を目指す。

2 軒のヤマメ料理店の間を抜
けて杉林の登山道に入っても
なく、8 時 55 分、沢にさしか
かる。滑らぬように注意し飛び
石伝いに渡渉して対岸の沢沿い
を登る。これから、すぐにさし
かかる杉林を抜けたあたりから

大山参加予定者 8 名をまとめ
た為健脚揃いで二班とのコー
スタイムの差が若干あった。

2. 積雪は 20 cm ～ 30 cm、経
読林道でアイゼン装着。大
山参加予定者で初めてピッ
ケルを手にする者がおり、
ここで指導を受ける。
3. 大竿峠～一の岳の間は積
雪 30 cm ～ 40 cm、大山組は
それぞれコースをとりラッ
セルの練習を楽しんでいた。
4. 午前中は薄曇りで昼食時の
一の岳頂上は何も遮るものが
なく、風雪を心配していたが、
風もなくゆっくりと食事をと
ることが出来た。午後、みぞ
れから小雨に変わったが護摩
場に着く頃には止んでいた。
5. 全体的に予定通りのタイム
で全員無事下山。求菩提温泉、
ト泉の郷で一日の疲れをとり
帰路につきました。

急登の連続となる。雪が登山道
にちらほらと見え出す。広河原
手前の木橋を渡り対岸へ。9 時
30 分、恐淵などの暗い廊下状の
谷を左岸沿いに登り、鎖で左岸
をへつり、その先で川底に下っ
て、飛び石伝いに右岸へ登る。
緊張する場面である。

10 時 24 分、夫婦滝。ここを
通過後、なく鈴の中尾の標識を
見て、谷沿いを登り本流に出る。
さらに、杉林の中にある丸太の
急登を上りきったところが経読
林道で、これを右にたどる。

10 時 50 分、大竿峠への登山
口にさしかかる。ここで、リー
ダーの合図と共に全員アイゼン
装着に取り掛かる。全員がそれ
ぞれに足元を固め、準備が整っ
たところで峠へ向かって、11 時
10 分、再出発。

夏山とまるで違う姿。雪は深
いところで 30 センチから 40 セ
ンチ。ギシギシという音が雪深

くなるにつれサクサクと変化していく。一步一步に夏山登山の倍以上の力がある。やがて大竿峠(11時30分)で、ここからさらに西に木製の急階段を登り、展望絶佳の一の岳(笹の宿)へ。

11時56分、予定通りの時間に全員が元気に登頂。山頂からの展望はやや悪天の兆しを見せるなか、うっすらと遠方の山容が伺えた。早速、各々が昼食の準備に取り掛かる。気温は低い。体温を奪われないように食事時間は短めにが、冬山の基本。全員、手早く済ませる。出発の準備が出来た後に、アイゼン歩行の諸注意を受ける。12時30分、さあ、これから求菩提山を目指し出発だ！縦走路を歩き出すと、すぐに雪が舞いだす。冬型の天気が強まってきた。灰色の雲が空を覆い、白いガスで視界が狭くなってくる。ところどころで横殴りの風雪となったが樹林帯の中に入ると、さほど気にならない。全員が快調に歩を進める。途中で杉の宿跡(13時22分)、虎ノ尾(14時8分)と短時間の休憩を取りながら、元気に下山。

長い下りに飽きてきたところに小広くなった。胎蔵界護摩場跡に、14時32分到着。ここで、ザックをデポして求菩提山へピストン。

14時56分、ここから右への五窟めぐりコースをとる。自然林から杉林に変わるところ、次々と左手に岸壁が現れる。普賢窟では国宝銅板法華経が発見され、吉祥窟前の石室では、昭和57年に即身成仏が満行され話題となった。阿弥陀窟手前の分岐で右に鋭角に下るが、自然石の石段をジグザグに下り、車道に出て左に100メートルほど行くと、今朝、出発した求菩提資料館駐車場で、全員が、15時30分、元気に無事着いた。

お詫び

今回、私は自分の不注意で風邪を引き、そのために体調を崩しておりました。途中で大楠さん、浜松さん、高島さん、そして皆さんにご心配をおかけして申しわけありませんでした

犬ガ岳感想

役員のお世話に 頭が下がる思い

下関市 北九 258 横山 洋子

ようやく自分の時間が持てるようになった今年、是非、冬の大山に行きたくて申し込みをしました。その準備山行ということで「犬ガ岳冬山準備山行」に会員として、初めて参加致しました。初めてお会いする方がほとんどでしたが、和気あいあい

の中、楽しく、又、有意義な山行が出来ました。冬山登山の注意点やアイゼン、ピッケルの使い方などの指導があり、大変役に立ちました。雪も林道からは30cm位積もっていて、雪の感触を楽しむことが出来ました。計画書通りの山行が出来たということで、お世話下さった役員の皆様が、下見を何度もされたと聞き、頭が下がる思いでした。又、求菩提山の史跡の説明もして頂き、勉強になりました。最後に、大楠リーダーより「大山山行、頑張ってくるように」と激励のお言葉を頂き、気持ちを一段と引き締めているところです。初めてでしたので、名前と顔が、まだ一致せず、失礼があるかもしれませんが、これからもよろしくお願い致します。

H15.1.21 記

箕山の節

（隠棲して自分の節操を守ること）。「箕山」は河南省登封県の東南の山。堯の時代、隠者の許由と巢父が、箕山に隠れて節操を守ったこと。帝堯は中国古代の理想的な聖天子として、天を尊敬し、人民を愛する政治を行い、人々から慕われたという伝説上の天子である。堯は、年老いたので天下を譲って引退したいと考えた。そ

山の格言・故事③

かなかった。また、堯の時代の隠者であった巢父は世俗を捨てて箕山の樹上に巢（ねぐら）を作り住んでいたが、許由が

こで、許由にその話をすると、許由は「汚れたことを聞いた」といって、潁川で耳を洗い、箕山に隠棲して、帝位につ

耳を洗った川は汚れた川を渡らなかつたという故事による。「箕山の志」ともいう。王莽が政權を掌握した時、一世紀王莽が安車（中国では車に乗ると車の中で立っていたが、安車は老人・女子のための、すわって乗る車）をさし向けて薛方を迎えようとしたが、薛方は許由・巢父の故事を持ち出して辞退したという。

（大修館書店・山辞典より）
伊藤Q

山行記

積雪 1 m ラッセルに悪戦苦闘!

あぞうじやま

安蔵寺山 万歳!

(1263m)

下関市 JAC11990 原 広 美

1月22日、AM 6:00 下関発。
中国自動車道六日市 I・C より
匹見方面に向かい、上高尻地区
林道を経て登山口に着いたのが
9時25分。いつもだったら、
入り口に小さなお地藏さんの姿
が見えるのですが、今日はすっ
ぱり雪の中に隠れて見えない。

スタートよりいきなり長い急
登が続き息が切れる。汗を流し
ながら、6名でトップを交代し
ながら高度を上げていく。時折
足がズボッと埋まり体を起こす
のが大変。5合目付近より早速
持参したワカン3足をそれぞれ
が装着して、これより3名が交
代でラッセルしながら尾根を歩
く。山の中はシーンとした静け
さと、1m以上の真っ白い雪と、
我々のみ。

道を探しながら行こうとする
と、小さきまぎまぎの動物の足跡
が私たちの疲れを癒してくれる。
きっとどこかで我々人間の
姿を見ていることでしょう。

回り岩と避難小屋を過ぎた辺
りより積雪はさらに深くなり、
足は思うように進まず時間だけ
がどんどん過ぎていく。山頂は
まだ遠く「今日は途中で引き返
しかな」とあきらめが半分。「何
としても山頂を踏みたい」との
思いが半分。10歩づつで先頭を
交代。目前のピークを一つ、又
一つ越えやっと1時20分山頂
着、思わず皆で「万歳!」と感
激の一瞬でした。

立ったまま軽く昼食を済ま
せ、下りは遠く小五郎山や寂地
山を眺めならら私たちが作った
トレースを尻スキーで思い切り
下り、時には転んだまま起き上
がれなくなったり、童心に帰り

おなかの底から大笑い。3時10
分登山口のお地藏さんに「無事
下山できました」と報告。又来
年も来れますようにと手を合わ
せ家路に就きました。

※ 安蔵寺山 (あぞうじやま)

島根県西部、冠山山地、標高 1263
m。興国年間に阿弥陀如来を安置
した寺を建立、安蔵寺と称したが、
後に焼失し本尊を石水寺に移す。
山頂から日本海、瀬戸内海を一望
できる。(山と溪谷社・世界山岳百
科事典より、伊藤Q)

随想

山旅 山歩き 山仲間

門司区

JAC13642 末吉 史 忠

飲み会の時には、決まって
趣味の話になる。仲間はほとん
どが異業種の連中で、酒杯を酌
み交わす程にゴルフや釣りそし
て登山や旅行などの自慢話にな
る。

だからだれも傷つかないかわ
りに楽しくて、つい時間が長く
なり翌日大反省の結果となる。

でもこれでいいと思っている。

ぼくはこれを称して昨夜の飲
み会は「失神コース」だったと
言って皆を笑わしている。

最近気が付いたのだが、仲間
がときとしてこのネーミングを
使用しているらしい。

フィールドは九州の山々だ。
曜日と一部の山系を除けば、ど
こも空いていてとても気持ちが
いい。

なんと言ってもどこに下りて
も、温泉があるのがこれまたう
れしくたまらない。ぼくはビー
ルが大好きで、親友によると「裕
次郎(石原)並み」ともいわれ
る程以前は飲んでいたそう。

しかしビールを一番美味しく

飲む方法は、汗を全身に浴びた
山歩きをしたあと、ビール片手
にいで湯に浸る時に勝ものはない
ことが分かってきた。これを
称して「山旅・山歩き三点セッ
ト」として、山仲間との飲み会
や自己紹介の折りによく使う。

ピークハンターの仲間たちも
加齢と共に賛同するものが増え
てきた。さて、若い頃からいつ
でも勝手気ままに実行し、ペー
スも自己配分ができる自分にと
って贅沢で我がままな一人山行
を好んでいる。当然下山コース
の終着地周辺には温泉を組み込
んでのことである。

人の匂いというか、山を生活
の場と感じる山がとても好き
で、山仕事(林業)の方々と地
元の人々と出会ったりするとよ
く話し、そのことを楽しみにし
ている。なによりも地元の話を
地元の言葉(方言)で聞けるの
が実にいい。

だから僕のは「登山」ではな
く内容から言って「山歩き」と
か「山旅」とかの言葉で表現し
ている。

でも還暦が過ぎたところから
は、かみさんから「単独で山に
行くのはそろそろ止めて、事故
でも遭ったらどうするの」と警
告をうけている。もちろん最近
は考えなくてもなかったが、一
昨年 J A C 北九州支部が発足
し、会員仲間の募集が始まった
ことが報道され、目にはしてい
たが。

その後加入のお誘いがあり、
会員として仲間に入れさせてい
ただいた。

おかげで山行にも何度か参加
させていただいたが、とっても
素晴らしい仲間に出合い非常に
満足している。なんといっても
私利私欲がなく、山情報の交換
をはじめ、和気藹々とした雰
囲気がいい。

同好の趣の会はこれではなくち
や一。

山行記録三題

- ① 皿倉～尺岳
② 英彦山縦走
③ 英彦山

下関市
北九322 塩谷 薫

① 〈皿倉平(590m)～尺岳(618m) 縦走記録〉

下山 菅生の滝 安全登山
平成 14 年 12 月 11 日 (水)

参加者 安富 (C L)、八重尾 (S L)、八木、塩谷

行程 J R 新下関発 5:42、小倉着 6:08、小倉発 6:12 (荒尾行)、八幡着 6:29

縦走記録 天候 雪(山中)、菅生の滝(雨)、気温 0～2 度

6:35 八幡駅発 (1:40、3.8k)、8:15 皿倉平 (590m)、服装整え 8:25 皿倉平発 (0:40、2k)、9:05 一の瀬峠 (370m) (0:30、1k) 双潮台 9:35 (:07、0.4k) 9:42 田床峠 (410m) (0:53、1.7k) 10:35 双伍山 (0:20、1.8k)、10:55 観音越、昼食 (0:25)、11:20 観音越発 (0:25、2.5k) 田代分かれ (1:10、2.5k)、12:55 尺岳の肩 (0:05、0.4k) 13:00 尺岳着。13:00 発 (1:10、3.6k) 14:20 菅生の滝に下山。実働 7:20、19.7 km、歩数 33,339 歩、全員完歩。14:20 菅生の滝発 (0:50、3 km)、15:10 道原バス停着。15:34 道原発、中谷經由、小倉駅 16:48 発、新下関 17:28 着。

感想 雪中行動、貸切状態で、積雪を踏みしめながらの歩きと、一面の雪景色と雪霧が、幻想的で大変気持ちよかった。全員竜王山 (下関市) で、鍛えているので、パワー全開、余裕を残し完歩した。今回は時間的に福智山までは無理、いずれ市民ハイクもあるので、再度福智山まで挑戦しましょう。お世話になりました。また何処かに山行しましょう。

② 〈英彦山縦走記録〉

平成 14 年 12 月 14 日 (土)

天候快晴 無風 気温 0～2 度

行程 6:00 幡生発、7:40 別所駐車場着。走行距離 79km。

参加者 中村 (C L)、塩谷
山行行程 別所駐車場 (620m)～奉幣殿～鬼杉分岐～南岳 (1,199.6m)～中岳 (1,180m)～北岳 (1,192m)～高住神社 (840m)～九州自然歩道～別所駐車場*北岳下アイスパン状態。

記録 7:55 別所駐車場発 (:20) 8:15 奉幣殿。右回りで南岳に向かう (:15) 8:30 学問舎分岐 (:05) 8:35 智宝神社 (:05) 8:40 玉屋神社分岐 (:07) 8:47 智宝神社梵字岩入口 (:03) 梵字展望所 (800m) (:08) 8:58 衣が池 (弘法大師が衣を洗った池)、水補給 (:14) 9:12 三呼峠 (880m) 一本休み。9:20 出発 (奉幣殿より 2km) (:05) 9:25 鬼杉分岐 (:15) 9:40 材木石 (970m) (:07) 9:47 展望所 (990m) (:18) No. 1 鎖 10:05 (1,080m) (:02) 10:07 No. 2 鎖 (:03) 10:10 No. 3 鎖 (:08) 10:18 迂回路分岐 (1,150m) 左へ (:02) 10:20 No. 4 鎖 (:05) 10:25 南岳着。展望台より由布岳～九重連山～根子岳～阿蘇中岳～雲仙～多良岳、大パノラマ最高の眺望でした。10:35 南岳発 (:10) 10:45 上宮着。昼食タイム (:50) 11:35 出発 (:30) 12:05 北岳 (:25) 12:30 一本杉 (1,100m) (:25) 12:55 望雲台分岐 (930m) (:10) 13:05 高住神社 (840m) 13:15 高住神社発九州自然歩道經由 (:45) 14:00 別所駐車場着 (620m)。

実働 5:15。14:10 別所駐車場発、添田風呂で汗を流して 17:20 自宅着。中村さんご指導有難う御座いました。今後とも宜しくお

願います。(アイゼン無装着)

③ 〈英彦山登山記録〉

平成 15 年 1 月 6 日 (月)

天候快晴 気温 -3 度～-7 度

参加者 中村、上野、橘、塩谷

7:00 玉姫殿前駐車場集合発～裏門司經由 8:37 添田駅着。路面凍結の為チェーン装着。9:02 発、9:40 別所駐車場着。チェーン装着でスムーズに走行できた。

行程 別所駐車場～九州自然歩道～奉幣殿～バードウォッチングコース～稚児落とし～千本杉～行者堂～中岳休憩所～北岳～一本杉～望雲台分岐～高住神社～九州自然歩道～別所駐車場。

山行行程 別所駐車場 10:10 発 (:28) 10:38 奉幣殿、衣類調整 10:45 発バードウォッチングコースを登る。積雪 50～70 センチでラッセル、全面樹氷しばし見とれる。 (:30) 11:15 小屋分岐 (:30) 11:45 稚児落とし分岐 (:30) 12:15 行者堂。水補給と願掛け参拝 (:23) 12:38 中岳休憩所着。昼食タイム。西村夫妻一行と出会う。登りタイム 2 : 2 8、気温 -7 度、無風快晴。13:35 中岳発 (:35) 14:10 北岳 (1,192m) (:25) 14:35 一本杉 (:25) 15:00 望雲台分岐 (:10) 15:10 高住神社 (840m) 下山。下りタイム 1 : 3 5。自然歩道を歩き、野営場より車に乗り 16:00 発、下関 18:00 着。

感想 10 年ぶりの積雪とかで、毎年冬季に登っているが、今までにない最高の冬景色で、まるで蔵王か北海道に行っているようで、最高の気分であった。積雪の重みで地面まで曲がり耐えている樹木を見て、自分も何事にも耐えてこれから先頑張っていこうと思った。

以上

伯耆大山冬山合宿報告 平成15年2月7日～11日

特
集

シリセードで締めくくる

門司区 JAC13471 板 倉 健 一



伯耆大山中腹にて (左端が板倉CL)

2月の大山は春の山でした。ブナ林のテント場では雨が降り、風も強く、テントは水浸しになりました。私自身、30年間で初めての冬山での雨でした。この様な気象条件の中で、今年の冬山合宿は行われました。

2月8日(土)

夜行バスで米子に着き、乗り換えバスで大山寺まで移動。下山キャンプ場にテントを設営し、元谷の宝珠尾根で滑落停止の練習をしました。この技術は確実にマスターすべきものですが、もっと重要なのは滑落しない技術を習得することです。

2月9日(日)

夜通しの強風と雨でテントの張り綱がゆるんでしまいました。夜中に起きて張り直してくれた人に感謝します。

4時起床。小雨の中をヘッドランプを灯けて出発。六合目までは、順繰りにトップを交替し

てもらいました。六合目でアイゼンを着け、強風の中、弥山まで登りました。山頂付近の視界は20m。持参した竹竿が役立ちました。頂上小屋には2階から入り、熱い紅茶を飲んで一休み。六合目と八合目の間の氷化した急な尾根を無事下り、行者谷に無事下りて歩行訓練をし、元谷までシリセードで締めくくりました。

2月10日(月)

4時起床。元谷経由で上宝珠沢を登り上宝珠越からユートピア小屋にトラバース。

冬とは思えない陽光で北壁の稜線からパラパラと落下してくる氷が何とも不気味で、三鉢峰には向かわず、早々に引き返しました。上宝珠沢を下るには傾斜が急すぎるので、安全のため宝珠尾根経由で元谷に下りました。

今回のメンバーの中に、一緒に登山をするのが初めてという人が

数人いました。技術、体力、知識が未知数なので不安を感じていましたが、全員立派に行動してくれました。楽しく充実した山行でした。

私自身、11年振りの冬山でした。一つ一つ知識と技術を思い出しながらの合宿でした。メンバー1人1人に心より感謝しています。

山人を 優しくつつむ 白い峰

参加メンバー

CL	板 倉 健 一
SL	原 広 美
装備	太 田 満
記録	馬 場 基 介
装備	浦 田 和 夫
書類作成	西 村 信 子
会計	藤 垣 三 知 子
食料	横 山 洋 子

行動記録

2月7日(金)

23:45 小倉駅前発

2月8日(土)

07:45 大山寺着、9:35 テント場発、11:00 元谷で雪上訓練、14:20 テント場発、17:30 就寝。

2月9日(日)

04:00 起床、5:45 テント場発、7:40 六合目小屋着、9:05 弥山着、9:45 頂上小屋発、10:15 六合目小屋着、11:00 元谷、12:30 テント場着、20:30 就寝。

2月10日(月)

4:00 起床、6:00 テント場発、7:05 元谷、8:37 上宝珠越、9:07 ユートピア小屋着、9:45 上宝珠越、11:30 元谷(宝珠尾根経由)、12:30 テント場着、14:30 テント撤収、22:30 米子発

2月11日(火) 5:25 小倉駅前着、解散。

大山登山に参加して

赤池町

北九 284 太 田 満

久しぶりの大山登山だったが天気もまずまず、下山日に元谷からユートピア小屋まで登ったときは朝から快晴になり、縦走中のパーティの姿も見えた。

女性4名も体力があり、板倉リーダー以下7名が3日間とも同一行動できて良かった。

スキーの出来ない自分は、6合目小屋から元谷への尻セードが最高におもしろい。大山に登るのはそれが目的みたいなものだ。今回は湿った雪で滑りが少し悪かったが、それでも雪山の楽しさを十分味わえて満足した。

数十cmの雪山は毎年何度か登っているが、数mの雪山はめったに体験できないのでまた行きたくなった。他のパーティが眠っている早朝に出発したので早い時間に下山でき、夕食前にゆっくりできた事、食料を完全に使い切ってしまった事などが良かった。

以上

大山冬山山行に挑戦！

豊津町

JAC13520 西 村 信 子

J A C の北九だよりに大山の募集記事が掲載され、今年こそ！ と思っていったので早速申し込む。10月に下見を兼ねて、下山キャンプ場でテント泊をし、弥山まで夏山登山道、帰りは六合目より行者谷、元谷と歩いた。

1月は雪の英彦山へ何度か登り、気構えだけは準備万端整ったつもり。

2月7日、米子行きの夜行バスに乗り込む。8名、いざ出発！！

大山は伯耆富士の名の通り、雪に覆われてきれいな山容をしている。弥山、剣ガ峰、三鉢峰、北壁が目の前に立ちはだかっている。お手柔らかにと願いつつ、元谷にて滑落停止の雪上訓練をする。何回か繰り返すうちに少しはさまになったのか、身体の切れがいいのが自分なりにわかったような気がする。林道のカーブミラーが足元の位置にある。普段見上げているのに見下ろしている。



伯耆大山テント場にて

4時起床、5時半過ぎ出発。ヘッドランプをつけ、6合目まではトップを交替で進む。トレースはしっかりとついてた。昨年はラッセルをしたそうで、その点今年は楽なようだ。ダイセンキャラボクを守るための木道は全く見えない。歩きやすい。手すりのロープは10cm程のエビのシッポが氷結して、透明のブレードになっており、とてもきれい。こういう雰囲気は地元の山では味わえない。

9時頃、山頂着。登り始めに降っていた雨は止んだが、視界は悪く、展望はきかなかった。だが、満足感でいっぱい！！ ヤッター！！ うれしい！！ リーダー有難うございました。

10日は快晴。宝珠越えでユートピアの小屋まで行く。上宝珠越えから先は山腹をトラバースするが、足の幅しかなく、ピッケルを持つ手にも変に力が入る。アイゼンを引っ掛けたら、そのまま斜面へゴロゴロと・・・。慎重に通過する。気温も高くなり、雪崩の危険性があるということで、10分程いて、すぐ下山。次の機会に三鉢峰はとおこう。またの楽しみに。

今回冬山山行に参加して、冬

のテントの張り方、食糧、雪上訓練と初めての体験でしたが、とてもいい勉強になりました。皆さん、自分の役割をきちんとこなし、きびきびとした動き、私としては反省することが多い山行でした。けど、いい山仲間にもたえ合うことが出来ました。ご一緒された皆さん、有難うございました。板倉リーダー、原サブリーダー、お疲れ様でした。とってもいい山行でした。私の山日誌に又、書き込みが増えました。

大山感想 役割分担でつくり上げた充実感

小倉南区
北九 292 藤垣 三知子

二泊三日の大山冬期テント泊山行を無事終了し、充実した満足感の残る山行だったと思います。上げ膳据え膳のツアー山行とは違い企画段階では本部役員の方々、打ち合わせ、準備、買い出しなど参加者一同役割分担し、意見を出し合いつくり上げた山行であった事は充実感を倍增したのではないのでしょうか。

何年ぶりの冬山大山という事で事前訓練の犬ガ岳山行以後キャンプ地に着くまで「先輩方のタフな歩きについて行けるだろうか？」と少し不安を感じていましたが、リーダーのユーモアたっぷりの話術に心もほぐれました。人員構成もたまたま男女4名づつという割合も功を奏したのか実に楽しいにぎやかなパーティになったようです。

夕食もその都度テントの中で車座になり、鍋を囲んでバラエティに富んだアルコール類に気分もほぐれ山行の疲れを癒す事が出来ました。

一つ一つの山行経験を次の山行へのステップにしながら、より充実した楽しい山行を続けて行けたらと思っています。

大山山行についての感想 山の厳しさ、優しさを感じる

下関市
北九 258 横山 洋子

不安と期待の中、冬の大山登山に参加させて頂きました。犬ガ岳山行と2回の打ち合わせをする中で、皆様とも打ち解けてきて、大変楽しい山行ができました。初めての冬のテント泊。準備は大変でしたが、テント泊でしか味わえな

い連帯感というものを感じました。

1日目は元谷での滑落防止の訓練、なかなかうまくいきませんでした。リーダーより「落ちないようにする事が一番」の言葉に納得。

2日目の弥山登山の時は、山の

厳しさを。3日目の宝珠越えからユートピア登山の時は山の優しさを感じました。まだまだ、自分の技術不足を強く思った山行でもありました。来年、又、機会があれば、是非参加させて下さいね！

三俣山お鉢めぐり

忘れた帽子に涙の再会！

門司区 JAC13465 大楠 益弘

帽子を忘れた！

忘れたところは、九重観光ホテルである。それは、平成13年9月のこと。月例山行で登高を終え、温泉に浸り、いい気分バスに乗った。暫くしてふと頭に手をやり、初めて帽子の無いのに気が付いた。呑気なものである。気に入っていたし、放っておくのも癪だからなるべく早い内に貰い受けに出向く積もりでいた。近くまで行って山の姿を見ながら退散するのも業腹だし、ついでに三俣山にも登ってみようと思い立った。

単独三俣山へ

2週間後の10月7日早朝、玄関を発つ。9:18、長者原着。コスモス荘前の駐車場もすでに満杯に近く、さすがは10月の連休と感じ入る。入山届けをし、ボツリボツリと歩を進める。快晴に近い。親子連れも多い。空身の人も居て、余計なことだが気になる。立て札が眼にとまる。午後からの入山についての警告板だ。昼過ぎて入山し、陽が落ちて途方にくれる登山者が居るらしい。登山口からの標高差のあまり無いのが災いするのか。高山の怖さが良く判っていないのだろう。

すがもり小屋手前の岩場に取り付く。来る度にコースが変わっている。昔の硫黄採掘場沿い

の道が懐かしい。脚がいかにも重い。先週4日間続けて我が身をアルコール漬けにした科が今来た感じだ。大いに悔やむが時すでに遅し。反省度は猿に劣ると家内に糾弾される所以。

交通の要衝すがもり峠

10:22 すがもり小屋着。鉾立峠方向から大船山中腹にかけて雲が迫って来ているが、ほぼ快晴。小屋から少し離れて岩に腰を下ろす。ザックからクリームパンと煮豆を取り出す。パンを頬張りながら、コップにティーバッグを入れ、テルモスの湯を注ぐ。小屋周辺は流石に人が多い。久住分かれから来たグループ、法華院からやって来た人々、三俣山に向かう組と、とても賑やかだ。10:50、小屋発。どうも動作が鈍い。11:05、西峰着。ああでもない、こうでもないと言山の名をあげつらう山口弁のグループがいる。地図とコンパスが雄弁に物語ってくれることを判ってほしいものだ。11:24、本峰着。今年、5月4日のこと、花に気を取られて下って行くうちに、指山に向かう積もりがとんでもない谷に踏み入り、落石の跡があちこちに残るガラ場をヒヤヒヤしながら、暫しの間、下った苦い思い出が蘇る。相変わらずの悪場を北峰へ向け下る。11:39、鞍部に着く。北峰

への登りにかかる。去る 5 月 13 日、誇らしげに鮮やかな色を競っていたクサボケ、コケモモの姿はもはや無い。北峰の手前の岩場と灌木の間でスリップ、どうも調子が悪い。11:42、北峰着。元気いっぱいのグループが指山方向から登ってくる。八幡からという。指山からの最後の詰めのややオーバーハング気味の所はどんな具合だったかと訊く。ロープが張ってあり、登りやすく有難かったと言う。会員の磯野文雄 (13533) さんが、9 月 23 日、通過した時に張り残しておいてくれたのだろう。心から感謝をする。11:49、北峰発。ピークを二つ程越えた所で、女性二人連れに出会う。岩場に腰を下ろし、何か盛んに食べている。山の挨拶をする。待っていた様に、雨ガ池へ下るコースの所在を訊かれる。どうやらとんでも無い所から下ろうとしていた様だ。判断に迷って誰か来るのを此处で待っていたとのこと。連れの一人から赤布を 2 本もらう。分岐点に左右に垂らしておくからそれを頼りに下りなさいと言って別れる。天気が良くてよかったとつくづく思う。12:13、雨ガ池方面分岐点着。約束通りに赤布を 2 本枝に結ぶ。ついでに「お元気で、日本山岳会」と赤布にペンで記す。遙か後方で女性二人の声が聞こえて来る。分岐点から見通せる岩場に姿を現すまで暫く待つ。先導する犬の姿が行き過ぎる。やがて二人が姿を見せる。コールし手を振る。コースの確認が出来て安心した気配の二人を後に南峰へと辿る。道幅が狭い。上り下りのすれ違いが難しいコースだ。一組が南峰から下ってくる。雨ガ池に向かうとのこと。道標が分かりにくいので、充分ウオッチしながら下る様助言。5 分程登り、又一組。頼りない歩き方。どうやら雨ガ池への道

が見つけられないらしい。見通しのきく所まで案内、道標のある場所の見当をつけて貰い別れる。又登り。太ももが重く感じる。立ったまま休む。眼下に坊ガツルを望む。色とりどりのテントが並ぶ。晴れ渡った大船山を背景に賑やかな色合いだ。又一組がやって来る。この組もコース案内。南峰の望める平坦部にやっと辿り着く。

呑み屋のママさんに

こちらへ向かってくるグループの中から、自分の名を呼ぶ女性の声がする。良く見ると門司の呑み屋のママだ。雨ガ池への道を訊いて来た。普段は下世話な話をしたり、ひやかしたりするのだが、此处は山。山の仁義を気取り紳士ぶって対応する。又娑婆で会おうと約して別れる。やれやれ反省のタネが又一つ。

さわやかな出会い

12:42、南峰着。身体の高い、年齢 45 歳位の男が一人立っている。足元にリンドウの花の群生。花を愛でる会話を交わす。更に相手はお鉢めぐりは早かったですねと親しげに語りかけてくる。はて誰だったか、見覚えのある顔ではない。いぶかしげな顔を無視して語り続けて来る。あなたのお鉢めぐりをずっと見ていましたよ。あのピークで少し休んでいたでしょうと北峰の隣のピークを指差す。自分はよほど変な格好で登っていたのだろうか。それにしても、一時間余りの長きにわたり一人の男の行動を視線で追い続けるなんてご苦労なことだ。しまった、先程の北峰の岩場でのスリップも、見られたかと覚悟をしていたが、そこは山の男の仁義、話をはぐらしてくれた。良く訊いてみると熊本の人で、以前から九重がとても好きで、阿蘇を通り越してしばしば通っている

という。37 年の星生山遭難事故では救助隊員として加わったとも言える。日本山岳会熊本支部に入会する気は無いかと聞く。その意志がある様なので氏名をメモして貰う。12:49、南峰発。時間は短かったが、良い出会いだった。山を愛する男の爽やかさが残った。

古き小屋を想いながらチビリ

13:03、西峰着。久住山の方からガスが出て来て、山頂がかげって来る。大船山の中腹には厚い雲が迫って来ている。眼下に小屋が望める岩場に腰を下ろし、二度目の食事。フィルムケースすれすれにブランデーを満たす。星生、久住、天狗、中岳、大船を肴にチビリチビリとやる。九州の屋根を眺めながらの宴。これ以上の贅沢は無い。それにしても眼下の小屋（すがもり越え休憩所）の何と殺風景なことか。寒風もしのげず、宿泊も出来ず、まことに味気ない。前の古い小屋が台風でやられた折りに、私のささやかな寸志を受け取ってくれた主人、久保さんの顔が懐かしく想い出される。その後いつだったか、小屋じまいの日、奥さんが引っ越し荷物を車に運び入れていた。心なしか肩を落とした寂し気な後ろ姿が今でも臉に浮かぶ。13:18、西峰発。すがもり小屋へ下る。13:28、着。

忘れた帽子と再会

13:35 発。搬送用道路と別れ、山径に入る。若干の未練を残して振りかえり山に別れを告げる。静かな内にも三俣山峰には厚い雲が立ちこめて来ていた。今日一日の山旅を独り静かに反芻してみる。単独行の良さである。再び歩を進める。14:27、長者原着。

忘れた帽子、綺麗な袋に入れられ、ホテルのフロントにそれはあった。

あまかざりやま

日本海の眺めが素晴らしい「雨飾山」はいかが！

副支部長 大庭常生

編集部のご好意に甘えて、長野県九州観光情報センターから、北九州支部の皆さんに、「長野県の山」を紹介させていただきます。

北アルプス、中央アルプスの山々は、もう皆さんには、お馴染みのことと思います。今回は、そんな人気者の陰に隠れた感じの「雨飾山」を紹介します。

場所は、北安曇郡小谷村の北部で新潟県境に位置します。標高は、1963mと高くはないが、山頂から日本海を展望できることや、ブナを中心とした深い森を有する山として、百名山にも数えられています。ただ、尾根伝いに、いくつかの山を登れる地形ではないため、つつい後回しになる山のようです。それに、この山は、登山口から、一步、山道に入ると山小屋もテント場も在りません。そのためか、自然がよく保たれ、高山植物も大変豊富です。

もう一つの楽しみは、麓周辺に点在する秘湯に浸って、ゆっくりと信州の田舎を味わえることです。一度お出かけ下さい。

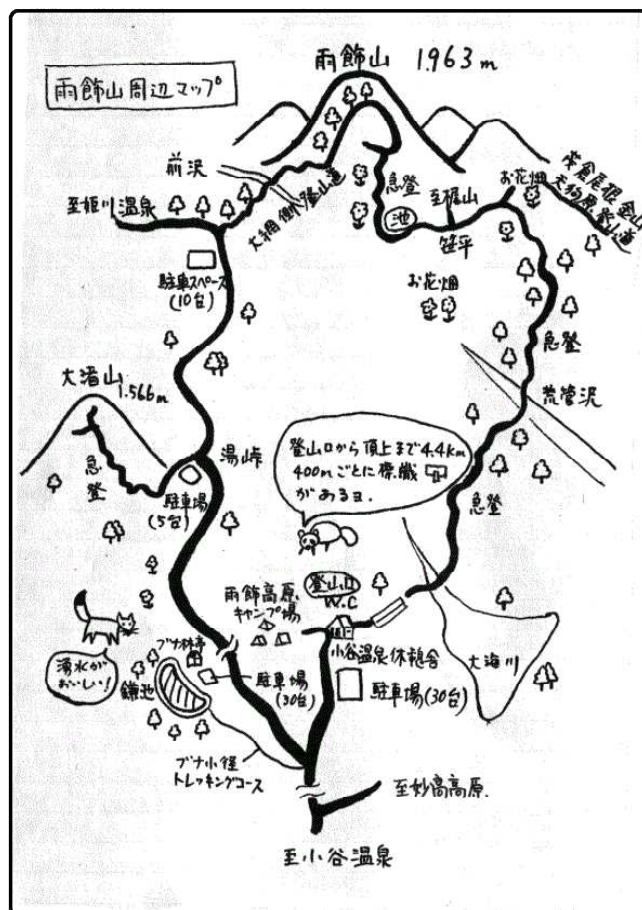
北九州からの交通

小倉－（新幹線）－名古屋－中央本線（特急2時間）－松本－大糸線（2時間）－

南小谷ーバス（20分）ー小谷温泉・泊 翌日登山

登山

小谷温泉休憩舎 - 20分 - 大海川原 - 70分 - 荒菅山 - 70分 - 笹平 - 25分 - 山頂



多く見られる花等

④ ～チングルマ、イワオウギ、キヌガサソウ、オオヤマリンドウ、サンカヨウ等々

⑨～日本一の紅葉（ブナ、ヤマウルシ、ヤマザクラ、ケヤキ、ナナカマド、キノコ類が豊富。

ただし、地元の人の案内を。

温泉

前泊には、小谷温泉が最も登山口に近く便利。国民宿舎や歴史のある旅館が数軒ある。後泊には、小谷村に奉納温泉、来馬温泉、下里瀬温泉等珍しい温泉が点在。その他、大糸線沿いは、どこにも温泉があり、自由に選べる。

【問い合わせ】

長野県九州観光情報センター

電話 093-541-0259

5月の山行

日帰り登山

由布岳（お鉢回り）

1584m

期 日 平成15年5月18日（日）

集 合 由布岳正面登山口（ヤマニハイウエー）
午前9:00コース 西峰から東峰へ（お鉢回り）
行程約6時間

天候状況が悪い場合は、東峰へ

参加者 30名まで

（運営上の都合により30名で締め切ります）

統括リーダー 磯野文雄（JAC13533）

申込み **5月10日まで**に下記へ葉書で申し込んでください。

福岡県糟屋郡新宮町湊坂4-7-5

〒811-0114 磯野文雄まで

7月の山行**皿倉山（薬草観察）**

日 時 7月13日（日） 午前8:30 集合

集合場所 帆柱ケーブル山麓駅前

申込み先 事務局 大庭常生までハガキで。

〒808-0063

北九州市若松区和田町11-13

締め切り **6月30日まで****平成15年度山行計画（6月以降）**

期 日	目的地（山域・山名）	備 考
5月18日	由布岳（お鉢回り）	日帰り（担当磯野）
5月31日～ 6月3日	上高地～蝶ガ岳（2664m） （ウエストン祭）	ウエストン祭に参加 （信濃支部主催）
7月	皿倉山	薬草の観察説明会
8月		夏休みを考慮し自由山行
9月	皿倉山地	岩登りの基礎訓練
10月	九重（男池～段原～大船山）	日帰り登山
11月2日～3日	祖母山（宮崎ウエストン祭）	ウエストン祭に参加 宮崎支部／高千穂町共催
12月4日～6日	きんがさん 金峰山（2595m） みずがきやま 瑞牆山（2230m） （年次晚餐会）	6日夜、年次晚餐会に出席
1月17日～18日	韓国岳～開聞岳	
2月	大山冬山山行	雪上訓練
3月	ほうべんざん 鳳凰山（742m）	山口市近郊

編集後記

○ 連休を忘れ、山行きを忘れ、展覧会の出品も忘れ、町内の仕事も忘れ、呑むことは忘れず、連日パソコンと格闘していました。サンデー毎日だから良いようなものの、今回の編集は、年度

末の突貫工事でした。由布岳の締め切りに間に合わせたいとの要望からです。

しかも、古い（？）原稿も、一度見送った伯耆大山の原稿も載せるためページも増やしました。

○ 山の原稿（山行記、感想、山の随想・・・等何でも）は
田川市西平松11-8 〒826-0032

伊藤久次郎までお送り下さい。方法は郵送、FAX、メール、どれでも結構です。写真はコピーでも結構です。メールアドレスは qito@mx71.tiki.ne.jp。電話・FAXは 0947-42-2772。尚、ワープロ（原稿）ソフトは一太郎を使用しています。よろしくお願いします。（伊藤Q）